

文化薫道

◆其の五十
平地に峠？

筑紫野市域を東西に伸びる県道福岡日田線に、「針摺峠」という交差点があります。辺りを見回しても平坦地が広がるばかりで、「峠」のような地形は見当たりません。一体なぜ「峠」という名前がついているのでしょうか。

元々「針摺峠」のある道は、現在の交差点よりも北へ200メートルほどの丘（現在の針摺東5丁目）の辺りとされています。明治43（1910）年に新しい道（現在の県道福岡日田線）が設置された際に、交差点名として地名も移動したと考えられます。元の道は、県道開設後には郡道（後に村道）に格下げになりましたが、江戸時代には天領日田と博多とを結ぶ重要な道「日田街道（博多街道）」でした。文化9（1812）年に九州を測量していた伊能忠敬一行の記録にも「…この続きに



明治33年旧版地図に現在の道路を一部合成

針摺峠という低い松林の丘がある。その坂道を下れば左方に針摺村があり…」という記述が残っています。

「針摺峠」は日田市方面と御笠方面との境界付近に当たり、新しい道の開設に際しても、人々の意識に境界としての認識が残っていたからこそ「峠」の地名を残したのではないのでしょうか。

交差点の名前ひとつにも長い歴史の息遣いを感じ取ることができます。

問い合わせ先／文化財課

